

2025 年 9 月 1 日

2025 年度 人事・採用担当者向けアンケート調査の結果

東北福祉大学キャリアセンター

1. はじめに

本調査は、東北福祉大学の卒業生が社会人として求められる能力をどの程度備えているかを評価することを目的として、事業所の人事担当者に対してアンケート調査を実施した。調査は別紙卒業生アンケートと同時期に事業所の人事・採用担当者に対して行い、1 件の結果が得られた。以下、回収され、提供されたデータに基づき分析を行った。

2. 調査結果

2.1 卒業生の能力評価

アンケートの結果、東北福祉大学の卒業生に対する評価は、以下の通りであった。

「専門分野の知識・技法・技術」は「優れている」との評価を得た。東北福祉大学の卒業生は、専門的な知識や技法、技術において高い評価を受けていることが示された。

「周囲と円滑にコミュニケーションする力」も「優れている」との評価を得た。卒業生は、周囲との円滑なコミュニケーション能力においても高い評価を得ている。

「幅広い知識や教養」も「優れている」との評価を得た。学問的な基盤や教養の面でも、卒業生は十分な能力を備えている。

「論理的に思考する力」は「やや優れている」との評価を得た。卒業生は論理的な思考力において、一定の評価を得ているが、他の能力に比べるとやや劣るとされている。

「プレゼンテーション力」も「やや優れている」との評価を得た。卒業生は、プレゼンテーション力において、一定の評価を得ているものの、まだ改善の余地がある。

「主体的に行動する力」も「やや優れている」との評価を得た。卒業生は、主体的に行動する力において、一定の評価を得ているものの、まだ改善の余地がある。

「新たな課題を発見する力」も「やや優れている」との評価を得た。卒業生は、新たな課題を発見する力において、一定の評価を得ているものの、まだ改善の余地がある。

「課題の解決に努める力」は「優れている」との評価を得た。課題解決のために努める姿勢については非常に高い評価を受けている。

「周囲と協力して物事を進める力」も「優れている」との評価を得た。チームワークにおいても、高い評価を得ていることが示された。

「多様性に関する知識・多様な考えを受け入れる力」も「優れている」との評価を得た。多様性への理解や受け入れにおいても高い評価を得ている。

「社会の中で自立する力」も「優れている」との評価を得た。社会人として自立する能

力に関しても、非常に高い評価を受けている。

「強い信念を持って自らの人生を切り拓いていく力」も「優れている」との評価を得た。卒業生は自己主導で人生を切り拓く能力においても優れていると評価されている。

「継続して学び続ける力」は「やや優れている」との評価を得た。学び続ける姿勢についてはやや優れているとされ、今後の成長の余地が感じられる。

2.2 学生時代に取り組むべき活動

学生が大学時代に取り組むべき活動として、「部活動・サークル活動」、「アルバイト」、「インターンシップ」、「ボランティア活動」が挙げられた。これらの活動は、社会に出る前に経験しておくことで、コミュニケーション力や協調性、自己管理能力を高めるために重要である。

2.3 学生時代に身につけてほしいこと

卒業生が在学中に身につけておいてほしいスキルについては、「部活動・サークル活動」、「アルバイト」、「インターンシップ」、「ボランティア活動」が提案されている。これらの活動を通じて、実践的な経験を積み、社会人として必要な能力を磨くことが求められている。

3. 結論

調査結果から、東北福祉大学の卒業生は、社会人としての基本的な能力において優れていると評価されている。特に、専門知識や技術、コミュニケーション能力、協調性、自立性において高い評価を受けており、企業の求める人材像に近いことがわかる。一方で、論理的思考やプレゼンテーション能力、主体的な行動力には改善の余地があり、今後の学生にはこれらの分野でのスキル向上が望まれる。

さらに、学生時代に取り組むべき活動として、部活動、アルバイト、インターンシップ、ボランティア活動が挙げられ、これらの活動を通じて社会人基礎力を高めることが期待されている。特に、インターンシップは、実務経験を通じて企業の求める能力を実感し、将来のキャリア形成に役立つ重要な活動となる。

以上の結果を踏まえ、今後の教育課程や学生支援活動において、学生の主体性を引き出し、実践的なスキルを養うことが求められる。

2025 年 9 月 8 日

2025 年度卒業生アンケートに関する事業所人事担当者へのヒアリング内容について

東北福祉大学キャリアセンター

<協力事業所の概要等>

今回協力いただいたのは、1980 年代に医療機関として開院、90 年代半ばから介護老人保健施設や在宅看護、保育所など事業を拡大し、現在は仙台市内を中心に約 50 の施設を有する医療・福祉の事業所である。職員数は約 1,600 人で、本学全学科（現行学科の前身含む）からの入職実績があり、リハビリ職、相談員、医療ソーシャルワーカーを中心に卒業生 103 人が在籍している。9 月 5 日に行った人事担当者へのヒアリングでは、主に下記 3 点の項目について伺った。

<ヒアリング項目と回答内容>

1、卒業生アンケートの集計結果について

概ね実感していることと重なり、想定される内容であった。「論理的に思考する力」と「プレゼンテーション力」、「主体的に行動する力」の評価がやや低いのが、対人の職種が多いことからプレゼンする機会がそれほどないこと、また自省も込めての評価となったのではないかと感じる。

2、在籍する本学卒業生の特徴、活躍する卒業生の特徴について

高い協調性を持ち、人と人をつなげることに長けている方が多いと感じる。ガツガツせず控えめではあるが、優しく思いやりがあり安心感がある方が多い。卒業生の方でとりわけ目立って活躍するのは、自身のやりたいことをしっかりと周囲に伝えられる力があり、課題解決の能力もある方である。

3、新卒採用で重視していること、今後東北福祉大学の教育に期待すること

医療・福祉業界は人と関わる機会が多い仕事。個人的な考えとしては、新卒採用に関しては、コミュニケーション能力と協調性、自主性を見ている。自主性に関しては採用試験においてなかなか測れない項目だが、面接時の会話の中で期待値を得ている。東北福祉大学の教育にはこれまで通り専門的な人材養成を期待しつつ、今後も正課、正課外を含めて学生が（学内外の）人と関わっていく機会を多く持たせてほしいと考えている。

以 上